

＜今日の説教のポイント 出エジプト記 12 章 21-23, 27b-39 節＞

神はこの出来事を起され、イスラエルはその意味を過越で想起する。

1 起こった出来事とそれのできた祭を記す二つの部分からなる。

出エジプト記の 12-13 章は、神様が起こされた出来事を語っていく部分と、イスラエル人がその意味を記憶し続けるために始めた祭について記している部分の二つから成る特殊な個所です。神様が起こされた出来事が自分たちの人生に大事な意味を持つことを伝え続けようとしたのです(12:14「この日は、あなたたちにとって記念すべき日となる」)。私たちが行う聖餐式はこれと似ています。すなわち、イエス様の死と復活の出来事が持つ意味を覚え直し、その上に立って生きる人生を歩み続けるために必要な聖礼典だからです。

2 全ての初子を撃たれたのはひどい？

ファラオのせいで全ての初子が撃たれるのは理不尽なように思えます。聖書は何を考えているのでしょうか？ まず、ファラオがイスラエル人に生まれた男の子を全て殺し続けせん滅しようとしたことを考えていると言われます(1:16)。旧約には「目には目を、歯には歯を」という、相手がやったこと以上の仕返しをしてはならないという律法がありました。それを考えると、一回限りの初子の死はずっとゆるいとも言えるのです。しかもここでえらく平等主義が強調されているのにも注目です(12:19)。また、ファラオが神様のこれまでの警告を聞かなかったことを考えなければならないと思います。神様を責める前に、自分の罪がどれだけ回りのものを苦しめたかを考えなければならないのです。

3 救いの神を信じる民の誕生。私たちもその群れに入れられた！

「壮年男子だけで 60 万人」(37)は多すぎます。これはダビデやソロモン王の時代の人数を示しており、自分たちは全てこの時の経験の上に立って生きる者なのだという信仰告白だと言われています。大急ぎで用意して身軽で旅立った、これは、「私たちには、この主(ヤハウェ)なる神様がついて下さっているのだ。だから何も心配する必要はない」という彼らの信仰告白でしょう。神様は、イエス・キリストを通して、さらに私たちをもこの信仰の民に加えて下さったのです。感謝。